

事業所名	放課後等デイサービス ハイタッチ		支援プログラム		作成日	2026年	4月	8日
法人(事業所)理念	子どもたちが、ご家族や地域とのつながりの中で自身の強みを発揮しながら自ら動きたくなる環境・きっかけをつくり、「楽しそう！やってみたい」という探求心を大事にその中で生まれる個々の課題への取り組みや成功体験の中で自己理解・自己肯定感を高めていくことを目指します。							
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう！と思える活動の提供(楽しめる場所、挑戦できる場所、安心できる居場所作り) ・自分で考え行動する力の育成(個々の強みを見つけ、判断する力・意思表示する力を養う) ・感覚運動や指先の訓練(個々の課題に対して個別訓練の実施) ・集団活動、レク活動の提供(集団レク等で体を動かし、体の動きをコントロールしながら運動でストレス等の気持ちの発散、気持ちのコントロール力、人間関係コミュニケーション力を身につける) ・個々の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5つの領域から総合的にアプローチを行い支援します。 ・子どもたちに関わる関係機関(療育・教育・医療)との関係性を構築し、協働を大切にします。 ・最後に子どもたちとその家族が安心して過ごせるようにサポートします。 							
営業時間	月曜日から金曜日は午前10時から午後6時 土曜日、長期休暇中、学校の振替休日は午前9時から午後5時		送迎実施の有無	有り				
支援内容								
健康・生活	意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮しながら健康状態を把握し、健康維持や改善を行うことで健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援していきます。生活リズムを整え、睡眠、排泄、食事、着替え等の生活に必要な基本的技能が身につくように、決まった時間に通所する、トイレでの排泄、時間誘導での排泄、尿意便意を伝える、食具を使用して自分で食べる、着席して食べる、偏食を軽減する、自分で衣服を着脱する等の声掛けや視覚支援を行いながら身辺自立に向けて自分で出来る事を増やしていきながら支援します。視覚支援を中心にしながら、来所時のルーティンの定着等を図り、一人ひとりに応じた環境の構造化を行い、時間や空間を本人に分かりやすく提示しながら、様々な活動を体験し楽しみ安心して過ごすことができるよう支援します。(連絡ノートや水筒を所定の位置に出す、日課・活動に取り組む等)							
運動・感覚	子どもの持つ感覚の特性を把握し、楽しみながら遊びを通して運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感、姿勢の維持等の様々な体の感覚の成長を促します。ラダーやトランポリン、ボールリリング等の感覚調整道具を通して、姿勢や運動・動作の基本的技能の向上、身体能力の向上、保有する感覚の活用を図り、またサーキット、ボール遊び、鬼ごっこ、リズム遊び等にも取り組みながら、上肢・下肢の運動や動作の改善及び動作の習得、身体移動能力の向上を目指します。なぞり等の運筆運動や道具を使った制作活動、粘土遊びを通して目と手、体を一緒に動かす、協調運動により視覚・聴覚等、保有する感覚を総合的に活用できるように支援しながら手先の発達や巧緻性の獲得を目指します。感覚の過敏等の偏りに対して支援方法を工夫しながら、負担なく過ごすことができる環境や関わり方について検討し、個々に合わせた支援を行います。							
本人支援 認知・行動	視覚、聴覚、触覚等のいろいろな感覚を刺激、活用しながら周りの物事を理解する認知機能の発達を促しながら、周りの状況に応じた行動に繋げていけるよう支援します。特性に応じた環境設定、小集団での活動、ルール遊び等に取り組みながら個々の特性に配慮しながら認知の偏り、こだわりへの対応を行い、活動スケジュールや内容を視覚的に分かりやすくカードや実物を用いて伝えたり、タイムタイマーを使用する等、始まり終わりの時間を意識しながら行動に移せるよう支援します。曜日、数の並び、大小の認識、色の把握、空間把握等に関する認知感覚の形成・活用に向けて、ブロック遊び、マッチング、型はめ、ひも通し、プットインなどの個別訓練を提供しながら各概念の習得を図り、制作活動では工程表や実物を用いて(理解の手がかりを提示)、見る力、真似る力が身につくようステップを進めていきます。適切な行動の形成・認知の偏りへの配慮・保護者との共通理解を通して情報を適切に処理できない難しさから生ずる行動の予防および対応方法を考えます。							
言語コミュニケーション	遊びや様々な体験を通して多くの言葉に触れる機会を提供します。毎日のやり取りの繰り返しの中でわかる言葉を増やし、指示に応じて出来ることを見つけ増やしていきます。他者と同じものに注意を向けたり、他者の行動や意図を推測・理解しようとする等の共同注意の獲得を目指し、一人ひとりの発達段階や興味関心に合わせてコミュニケーション能力の芽生えから向上のために支援を行います。多様なコミュニケーション手段を用いてやり取りを行うことができるよう配慮しながら、指さしやジェスチャー等を受け止めて子ども意思を推察し、必要に応じて「〇〇がしたかっただね」等と言語化を行い、感情や体験、物と言葉の意味を結びつけることで、語彙を増やし、自発的な言葉の表出を支援します。集団療育や余暇時間にいろいろな年代の児童と関わりを持てる場を提供し、友だちや大人との簡単な挨拶や会話のやり取りを経験する中で、発声や発語、自発的な会話、意思表示を引き出し、自身の気持ちや想いを伝える、援助を求めるSOS等、生活の中で自分自身を大切にするために必要な言葉や行動を習得し、個々の発達段階に応じたコミュニケーション手段を(身振り・指さし・サイン・ジェスチャー・絵カード・言葉・文字を使う等)見つけて自分の気持ちを表出でき伝えられるよう支援します。							
人間関係社会性	人との関係を意識し、信頼関係を築きながら、安心して取り組むことができる環境下で、見守りつくれる大人と安定した関係の形成(アタッチメントの形成)を図ります。個々のペースを大切にしながら遊を通して他者に興味・関心を持つことができるように関わっていき、一人遊びから二人遊びへ、子ども同士集団遊びへ繋げ、社会性や人間関係の芽生えを支援します。また、友達と一緒に遊ぶ楽しさを経験し、達成感や喜びを共有することで自己肯定感を高める機会を作ります。好きなことや得意な遊び、活動を通して、模倣、友達とのやり取り、順番ルールの理解等、社会での必要なスキルを身につけていけるよう支援します。様々な活動に参加することで好きなことや嫌いなこと、得意不得意に気づくことで気持ちのコントロール等を学んだり体験したりして、自己理解に繋げ自信を持って人と関わることができるよう支援します。公共施設等での室内外活動、公園や図書館の利用、地域活動への参加等、社会資源の活用を行いながら社会性・協調性を育み、地域に出て一緒に生活していくために必要なスキルを身につける機会を作ります。							
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が安心して子育てを行うことができるように、ご家族の子育てに関する困りごとに対する相談支援(困り事があった時には、管理者、児童発達支援管理責任者にいつでも相談できる環境の調整) ・ご家族・兄弟児に対して、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援(子どもとの関わり、兄弟に関すること等の様々な不安や困り感へ対応) ・子どもの発達上のニーズに対しての気づきを促し、ご家族との課題の共有、本人の想いの共有、課題解決に向けて支援方法の提案、家庭と連携して支援の実施(ご家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供) ・連絡帳や送迎時に日々の療育の様子や取り組みを共有し、支援後のフィードバック(子どもの発達状況や支援のニーズの共通理解) ・ご家庭、事業所、学校等の関係者、関係機関との連携を図り支援体制を構築(ご家族のバックアップ) ・必要に応じて、相談支援事業所、他放課後等デイサービス事業所、短期入所等を実施する障害福祉サービス事業所、発達障害者支援センター、児童相談所、専門医療機関、保健所等と連携(関係機関協力しながらの家族支援) 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・<保育所・小学校等への移行支援> ・子どもと家族のニーズや想いを確認しながら、保育所(進級・就学)、家庭、地域活動、移行するための個々のニーズの確認し、移行先を検討相談、移行することで見込まれる成長の検討(子どもの発達の評価・支援、家族への情報提供・相談支援、具体的な移行の提案) ・各ステージへの移行を目指し、社会や地域の中で過ごせるような支援を個々に合わせステップで行い、習得したことを保育所(進級・就学)、家庭、地域活動等で同様の行動ができるよう支援し、地域の生活の場、育ちの場を整え地域との繋がりを構築(インクルージョンに向けた取り組みの推進) ・進級、就学時に引継ぎ資料の作成や必要に応じて保育所、関連の医療・福祉施設、地域施設と情報交換や担当者会議、訪問等を行い、包括的な支援を行えるよう環境作り(移行先との支援方針・支援内容・支援方法の共有や、子どもの状態、保護者の意向についての共有) ・就園、就学前に情報共有を行い、環境の変化に左右されずに一貫性を持った支援を提供(引継ぎ、情報共有) ・家庭、保育所との連携・協働による支援の実施、切れ目のない支援のための縦横連携を大事にライフステージの変わり目においても関係者間の連携を構築(家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトの重視) ・保育所との連携や支援の構築など、同年代の子どもたちとの仲間づくり等の支援(地域移行を支援) 					
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加や公共施設・公園・図書館等の利用、地域と交流する機会を提供(地域資源の活用) ・地域子ども園、障がい児通所支援事業所、就労事業所との交流を計画実施。子どもたちが地域で適切な支援を受けられるよう、関係機関と連携しながら地域の子育て支援力を高めるためのネットワークの構築(地域との繋がりの構築) ・地域生活に関する保健、医療、福祉、教育、労働等の関係機関、障害福祉サービス事業所、障がい児通所支援事業所、相談支援事業所との連携を図り、支援方法の情報共有や会議への参加(相談・支援・連携) ・個別の支援会議又は日々の子どもたちとの関わりや支援を通しながら、生じた課題等を地域の自立支援協議会、事業所連絡会等において検討するなど、地域全体の課題として取り組んでいく。(自立支援協議会、事業所連絡会等への参加) 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市町村、児童発達支援センター、障害児支援関係団体が実施する外部研修等への参加、事業所内における定期的な研修会や勉強会を開催(障がいへの理解を深め、新しい支援方法を学ぶ機会、支援の質の向上) ・事業所内で虐待防止・身体拘束適正化委員会の実施、事故防止に関する研修、感染症に関する研修、防犯に関する研修、災害に関する研修、職員が希望する研修への参加、オンラインについて研修を受けられる機会の確保(職員の質、支援の質の向上) ・地域の学校、医療機関・福祉機関等からの情報収集(情報の収集、情報の提供) ・日々のミーティング、会議を開催し、子どもたち1人ひとりの情報や支援方法の共有(職員間の感覚、認識、支援方法の統一) 					
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して誕生日会や季節に応じた行事ごとの制作活動やクッキング、地域交流(他事業所・高齢者施設・子ども園との交流活動) ・就労体験(就労支援事業所や一般企業の協力の元、開催) ・スポーツ大会、レク大会、マラソン大会(事業所内開催、他事業所と合同開催の場合もあり) ・おでかけ(公園遊び、公共施設の利用、買い物体験、外食等) ・避難訓練(地震津波、火災、水害、年2回以上) ・不審者対応訓練(年2回以上) ・その他(熱中症対策指導、交通安全指導等は必要に応じて開催) 							